

「授業の映像」の視聴後に「授業検討会の映像」を視聴した意識の変化に関する事例的研究

阿部 隆 幸*

(平成29年8月31日受付；平成29年11月22日受理)

要 旨

本学では、現職の教員と教員志望の学生が混在して学んでいる。同じ授業を見ていても、現職教師と学生との間では「見えるもの」「考えること」が異なっているという前提がある。どんな違いがあるのか。現職教師、学卒院生、学部生の三つの調査対象に同じ「授業ビデオ」「授業後検討会ビデオ」を視聴してもらい、肯定的に感じたこと、批判的に感じたことを書き出してもらった。調査用紙をもとに、分析、考察を加えたところ三者の特徴を九つに整理することができた。「授業ビデオ」の見方は、授業への興味関心が大きく関係していると方向性を出すことができた。

KEY WORDS

授業観察 Class observation 授業検討会 Reflection 教師教育 Teacher Education

1 問題の所在

大学（大学院）では、現職の教員、教師を目指す学生が混在して学んでいる。日々、現場という「内部」で授業を行って来ている現職教師と教育実習や模擬授業、授業記録等の「外部」からでしか授業を語ることができない学生では、「授業を見る目」が異なることが、前提で語られることが多い。現職教師がより深く授業を観察できて、学生は浅く授業を見ているという指摘である。授業観察力に着目した研究として秋田ら（1991）¹⁾がある。熟練教員と違い新人教員は、参観した授業に関し「授業の事実を表層的に捉えるだけ」等を示唆している。まだ現場に出ていない学生はこの新人教員と同等かそれ以下の授業観察力と予想される。その実際を確かめてみたい。加えて現職教師と学生とでは、「授業を見る目」にどのような違いがあるのか関心がある。

また、「授業ビデオの視聴」というと、「授業そのもの」の視聴を指すことが多く、授業後検討会についての「ビデオ視聴」は行わないことが多い。これは、授業ビデオまでは見ることができても、授業後の検討会のビデオを視聴するほどの時間を確保できないこと、授業ビデオと授業後の検討会のビデオの双方をなかなか準備できないこと、授業ビデオと授業後の検討会のビデオ双方を見ることに価値が見いだせないこと等、いくつかの理由が考えられるだろう。そこで、授業後検討会のビデオ視聴をすると、どんな発見があるのか否か、授業検討会のビデオ視聴に何らかの意味を見いだせるのか否か、検証しようと考えた。

2 研究の目的

現職教師と教師を目指す学生との間で「授業ビデオの見方」に違いがあるのか。違いがあるとして、どのような特徴的な違いがあるか。

「授業後検討会ビデオ」を視聴することで、現職教師、教師を目指す学生共に「授業ビデオ」を視聴するだけでは得られない授業実践への気づきを得ることができるか。気づきを得たとしてどのような気づきか。現職教師と教師を目指す学生には気づきの違いがあるか。

これらを明らかにすると共に、「授業ビデオ」の視聴、「授業後検討会ビデオ」の視聴の価値を検証することを目的とする。

*学校教育学系

3 研究の方法

現職教師、学卒院生、学部生参加のもと、筑波大学附属小学校で行われた有田和正氏の「出島」の「授業ビデオ」を視聴し、気付いたことをワークシート(A)に書き込んでもらう。続けて、「授業後検討会ビデオ」を視聴し、気付いたことをワークシート(B)に書き込んでもらう。最後に、「授業ビデオ」を視聴した後に「授業検討会ビデオ」を視聴しての気づきや心の変化をワークシート(C)に書き込んでもらう。

その後、各ワークシート(A)、(B)、(C)の書き込み内容を類型化し、大きく二つの視点で分析する。

第一に、現職教師、学卒院生、学部生、三者に「授業ビデオ視聴」「授業後検討ビデオ視聴」「授業ビデオ視聴後に授業後検討ビデオ視聴しての気づきや心の変化」の違いがあるか見いだす。違いがあった場合、どんな違いがあるかも取り出す。

第二に、「授業ビデオ視聴」に加え「授業後検討ビデオ」視聴を行うことで、「授業ビデオ視聴」だけでは得ることができない授業実践に向けた気づきや心の変化があるかを検証する。

4 調査方法

4.1 調査時期及び調査対象

2017年7月31日 現職教師4名、教職大学院学卒院生(1年)4名、教育大学教員志望学部生(3年)4名

4.2 調査素材

調査対象に視聴してもらった「授業ビデオ」と「授業後検討ビデオ」を説明する。

この「授業ビデオ」は1990年12月18日に筑波大学附属小学校6年有田和正学級で行われた「出島」を題材とした社会科の授業である。

「授業後検討ビデオ」は授業後、東京大学(当時)の藤岡信勝研究室を中心に授業者の有田和正氏を囲んでストップモーション方式と呼ばれるもので授業後検討会を行っている様子をビデオ撮影したものである。「ストップモーション方式」とは2つの意味が含まれている。提唱者の藤岡信勝(1991)⁽²⁾によると、「(1)ビデオを用いた授業検討会の方法としてのストップモーション方式 (2)授業記録の書き方としてのストップモーション方式」である。本論で述べる「ストップモーション方式」とは(1)を指す。(1)を詳しく説明すると「授業を録画したビデオを再生して見る際に、ビデオの走行を一時停止して個々の場面における教師の教授行為について議論する方法」となる。この様子を撮影した映像が本論の言う「授業後検討ビデオ」である。ストップモーション方式の説明にあるように、有田氏と藤岡氏がビデオ映像を再生できるようにしたテレビをはさんで椅子に座り、藤岡氏がビデオのリモコンをもち、再生しながら任意に映像を止めて、有田氏に質問をし、有田氏がそれに答えるという形で映像は進んでいく。

この授業の記録とストップモーションの記録は、「授業づくりネットワーク」誌⁽³⁾に収められている。

4.3 「授業ビデオ」の内容

どのような授業を見るかで、視聴者の学ぶことのできる内容、質、量が変わると考えられる。今回は授業名人として全国的に著名な有田和正氏の授業を選んだ。授業実践時の27年前と随分日数が経過し、有田氏の授業が今求められる主体的・対話的で深い学び(いわゆるアクティブ・ラーニング)であるか判断に難しい。しかし、今もって有田氏から学ぶ現場実践者は数多い。子どもたちの発言が多く活動的である。そして、有田氏は様々なスキルを使って授業を進めていると予想されるので、視聴者の学びが多いのではないかと考えた。どのような授業であったか。「授業づくりネットワーク」誌⁽⁴⁾から最初の部分を抜粋し、「授業ビデオ」の紹介としたい。

あいさつがすむと、教師は黙って模造紙大の出島の絵を黒板にはる。

ただし、右側上部のオランダの国旗が描かれている部分の上にデジタル時計をおいてかくす。早速、小さなしかけがはじまった。

「その時計はなんですか?」「時計とってください」などとすかさず声上がる。誰かが「出島」と言ったようだ。「オランダの国旗だ」という声もする。教師はあっさりと《出島》と板書する。

(中略)

何人かが挙手する。教師は『何ですか?』と言って一人の女の子を指名する。

『『ハイトップ』(参考書の名前)の140ページにそれ[黒板の絵]と同じようなのがあって、先生が今時計でかくしているんですけど、オランダの国旗があるんです』

『オランダの国旗？ああ、そう。オランダの国旗はどんな国旗ですか？』
 上から赤、白、青だと口々に答える。『じゃどけましょう』と言って教師は時計をはずす。先ほどの女の子が発言を続ける。
 「それで、＜三代将軍徳川家光の時につくられた。そしてオランダ人をこの島に住ませた。鎖国をしたわが国にとって外国に開かれたただ一つの箇所であった＞って書いてあるから、オランダ人とつきあい始めたっていうか、そういうことだと思います」
 教師は『ここにオランダ人が入っている』といいながら黒板の右側に「家光のとき造られた」、黒板の左端に「オランダ人」と板書する。

以下、授業は大部分このルーティンのくり返しで進行する。ルーティンは次の四ステップからなる。
 <1>教師がことばまたは動作で子どもの気になるふるまいをする。それが問題提起の役目をする。
 <2>子どもはその問題提起の意味をすかさずキャッチし、手もちの資料をフル動員して調べる。
 <3>発言したい子は挙手し、指名されて発表する。
 <4>教師はその発表の中からポイントとなるキーワードを抜き出し板書する。

4.4 調査の進め方

次の3つの段階を経て情報を得た。一つの教室に集まって視聴したが、全て個人作業とし、話し合いはしていない。

- ・ 授業ビデオを視聴する。(46分) → 視聴しながら、ワークシート(A)を書いてもよい。
- ・ ワークシート(A)を書く。(10分) → トイレ休憩を含めた。
- ・ 授業後検討ビデオを視聴する。(44分) → 視聴しながら、ワークシート(B)を書いてもよい。
- ・ ワークシート(B)を書く。(10分)
- ・ ワークシート(C)を書く。(15分)

下はワークシート記入例である。

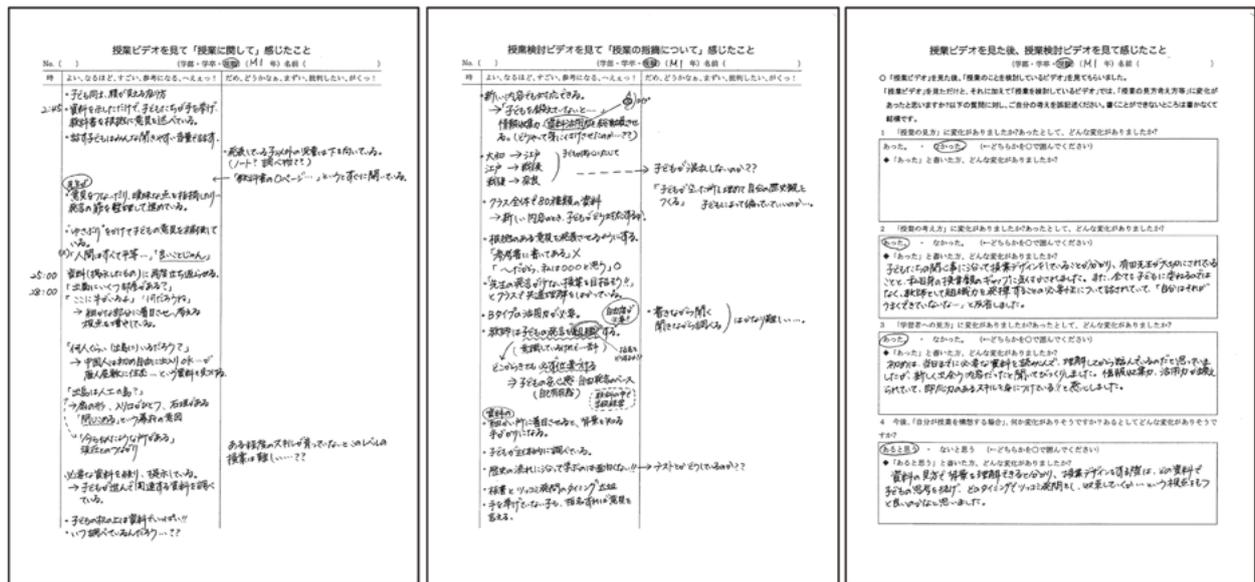


図1 ワークシート(A)記述例

図2 ワークシート(B)記述例

図3 ワークシート(C)記述例

ワークシート(A)は「授業ビデオ」視聴で感じたこと、ワークシート(B)は「授業後検討ビデオ」視聴で感じたことを書いてもらっている。見る映像は異なるが、ワークシートの形式は同じである。左に「よい、なるほど、すごい、参考になる、へええっ!」と肯定的に受け止めたこと、右に「だめ、どうかなあ、まずい、批判したい、がっ!」と批判的に受け止めたことを記述するように促した。上から下へ向けて、時間軸で書いてもらった。

ワークシート(C)は「授業ビデオ」と「授業後検討ビデオ」を視聴して自分に変化があったことを質問している。書くことができない部分は書かなくてよいと指示を出した。質問項目は下の4つである。

- 1 「授業の見方」に変化がありましたか? あったとして、どんな変化がありましたか?
- 2 「授業の考え方」に変化がありましたか? あったとして、どんな変化がありましたか?
- 3 「学習者への見方」に変化がありましたか? あったとして、どんな変化がありましたか?
- 4 今後、「自分が授業を構想する場合」、何か変化がありそうですか? あるとしてどんな変化がありそうですか?

5 結果及び考察

5.1 ワークシート(A)(B)の分量から

表1 ワークシートへ(A)(B)の書き込み個数(個) 合計12名

調査対象		現職教師				学卒院生(1年)				学部生(3年)			
人物(仮名)		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
授業ビデオ	肯定的	8	18	13	5	17	7	12	8	6	4	7	10
		(合計) 44				(合計) 44				(合計) 27			
	批判的	5	4	2	1	8	5	8	8	2	3	3	8
		(合計) 12				(合計) 29				(合計) 16			
授業後検討ビデオ	肯定的	32	20	13	10	8	7	13	7	11	13	5	9
		(合計) 75				(合計) 35				(合計) 38			
	批判的	7	2	4	7	7	4	4	3	0	0	0	3
		(合計) 20				(合計) 18				(合計) 3			

※1 「授業ビデオ 肯定的・承認」は図1の左側、「授業ビデオ 否定的・疑問」は図1の右側、「授業後検討ビデオ 肯定的・承認」は図2の左側、「授業後検討ビデオ 否定的・疑問」は図2の右側のところを指す。

※2 「個数」の数え方は、一つの意味をなす文章を1つと数えた。(例:「資料の見せ方(オランダの旗を磁石で隠す)」「この時間に何を勉強するのだろうか。見通しとゴールは?」これらをいずれも1つと数えた)

ワークシートへ書き込んだ言葉の個数で比較する。

「現職教師」と「学卒院生」において「授業ビデオ」を視聴しての「肯定的」の数に差は見られない。合計が44と同じである。個別的な差があるだけで「現職教師」も「学卒院生」も同じ程度の「肯定的」の気づきをしていると言えることになる。それに比べて「学部生」は「授業ビデオ」から「肯定的」の気づきの数が17も少ない。

「授業ビデオ」の「批判的」の個数は、「現職教師」が一番少ない。

「授業後検討ビデオ」の「肯定的」では、「現職教師」が書き出した個数が圧倒的に多い。合計の数を比べると「学卒院生」「学部生」が出した数のほぼ2倍を書き出している。

「授業後検討ビデオ」の「批判的」では、「学部生」が出した個数が3個と圧倒的に少ない。

5.2 ワークシート(A)(B)の内容から

特徴的な書き込みを取り出す。文末の()内は、その書き込みを書いた調査対象である。

「授業ビデオ」

◎肯定的

- ・先生の受け答え。受容の他に「本当に?」「そうなの?」「?じゃないじゃん」→ゆさぶり(現職教師)
- ・「中国人はどこに住んでいるの?」子どもたちの説明の矛盾点を問う。(現職教師)
- ・子どもに気付かせたいポイントに触れるけど、詳しくは子どもに考えさせる。(現職教師)①
- ・先生が意見をつないだり、曖昧な点を指摘したり、発言の筋を整理して進めている(現職教師)②
- ・「○○ってどういうこと?」など子どもの意見の深いところまで聞き込んでくる。(学卒院生)(学部生)
- ・言葉につままっている友達を助ける子どもたちがいる(学卒院生)③
- ・後ろの友達と地図を見て相談している子どもがいる(学卒院生)④
- ・子どもたち自身が自らの主張をきちんと持って発表している(学卒院生)
- ・一人一人の発表をもとに授業を展開している(子どもたち自身がストーリーをつくっている感じ)(学卒院生)
- ・教科書を読み取らせるような手だて、発問(学部生)
- ・知識伝達型ではない社会科授業(学部生)
- ・板書がきれい(学部生)⑤

- ・「導入→展開」への切れめがない（学部生）
- ・いきなり地図を貼って子どもたちの興味関心を引き出している（学部生）⑥
- ・ある程度子どもたちが発言したら新しい発問をしている（学部生）
- ・ヘクタールを運動場などのイメージしやすいところで例えている（学部生）

◎批判的

- ・話を聞いているときに他の子がどう考えているか（現職教師）
- ・言いたいことがある子が話す前に教師によって今話している以外へ話題が移る（現職教師）
- ・発表している子以外の子どもたちは下を向いている（ノート？調べ物？）（現職教師）
- ・友達が話しをしているときに手を挙げて声を出しすぎている。（学卒院生）
- ・授業時間が終わっているのに、続行している。時間にルーズ（学卒院生）⑦
- ・板書のめあてが「出島」というキーワードのみ。授業目標がわからない。（学卒院生）（学部生）⑧
- ・子どもたちの疑問が消化し切れていないまま授業が終了してしまった（まとめ無し）（学卒院生）⑨
- ・ひたすら調べている子がいて発表していない。授業に参加したことになるか（学卒院生）
- ・発言している子達はよいが授業についてこれない子がいる（学部生）

「授業後検討ビデオ」

◎肯定的

- ・つっこみ→子どもの考えをつなげる役割に（現職教師）（学卒院生）
- ・指名権を放棄したら授業は成立しない（現職教師）
- ・「先生の発言が少ない授業を目指そう」とクラスで共通理解を図っている（現職教師）（学部生）
- ・右手で書き、左手で手を挙げ、耳で友達の話聞く（現職教師）
- ・歴史意識が高い子は先に指さない。3年間担任していただいたいわかる（現職教師）
- ・教師は子どもの発言を組織する（子どもの考えの流れをマネジメントする）（現職教師）
- ・「新しい資料+自分の考え」というタイプの活用が必要（現職教師）（学卒院生）（学部生）
- ・自分が思っていること考えていることを納得するまで聞くことができる体制（学卒院生）
- ・子どもの様子をよく観察している。実態に応じている（学卒院生）
- ・一斉授業の中で一人一人の子どもたちの「個」の見方にこだわるところ（学卒院生）
- ・板書は一度書いたら消さない。関連づけさせる（学卒院生）（学部生）
- ・「ずれ」が「新たな視点」になる。うまくまとめる（板書する）のが教師の役目（学部生）
- ・ノートは授業中に書く。終わってから書くようではもったいない。（学部生）

◎批判的

- ・個人はいいが、興味は様々。全員が同じ問題意識をもつものか（現職教師）⑩
- ・書きながら聞く、聞きながら調べるはかなり難しい（現職教師）（学部生）⑪
- ・発表をしない子は思考しているのかな？（現職教師）
- ・質問と答えの内容がどんどんズレていく（学卒院生）⑫
- ・男女の発言の差。発言は女子ばかり。（学卒院生）⑬
- ・「日本語で言ってよー」という教師の言葉に傷つくのではないか（学卒院生）⑭

5.3 ワークシート(C)の内容から

ワークシート(C)「授業ビデオを視聴した後、授業後検討ビデオ」を視聴しての授業の見方考え方の変化」について、「現職教師」「学卒院生」「学部生」それぞれに特徴的なものを取りだす。

「現職教師」

- ・授業ビデオでは子どもたちが鍛えられていると感じただけだったが、授業後検討ビデオを視聴し、新しい資料に考えを付け加えて発表するという鍛え方をしている方向性が見えてきた。
- ・授業ビデオ視聴時では、挙手しない子どもは、自信がない、分かっていない、考えていないかもしれないと思ったが、授業後検討ビデオを視聴し、他の友達の話聞いて考えている、自分の出番を待っているのだとわかった。

「学卒院生」

- ・発言者の方向を見ない点を否定的な意見として授業ビデオ視聴時に書いたが、それは、書く聞く探すの3つの行動を並行して行う技術を身につけさせているのだと言うことがわかった。自分で観察しきれないものを授業後検

討ビデオではわかってよかった。

- ・突発的に児童を指名しているように思っていたが、教師は児童がどんな発言をするかにより授業の中身が変わるのでそれを前提に指名していることが分かった。

「学部生」

- ・授業ビデオでは「こうしたほうがよい」と思う点について、授業後検討ビデオを見ることによって授業者がなぜこのような授業スタイルにしたのかといった意図や背景を知ることができた。
- ・（授業後検討ビデオで）多くの資料を津子どもたちが使っている（80種類）ということを知り、（授業ビデオで）見せ合っている資料や意見を話しているところにも注目したくなった。

5.4 考察

以上のデータから以下の九つのことが言える。（文中の丸数字は「5.2」で下線付きで記されている文章を指す）

第一に、授業ビデオを見て、よさの数を見つけ出すのに現役教師も学卒院生も差はない。日々現場にいる現役教師同様、学卒院生も教師になって働く目標や夢を持っているために積極的に授業ビデオを見たと考えられる。学部生にとっては教師志望ではあってもまだ現実を帯びていないと考えられる。

第二に、学卒院生、学部生は客観的に授業ビデオを見ることができる。授業ビデオを批判的に見た数では、現職教師が最も少ない。これは、「有田和正＝授業名人」というイメージが先走った結果と考えられる。有田和正という名前で偏見なく、客観的に授業を見ることができる学卒院生、学部生だからこそその批判的な書き込みである。

第三に、現役教師は、学卒院生や学部生に比べて授業者の目線をもって授業者の話を肯定的に受け止めることができる。授業後検討ビデオは、授業者（有田和正）に授業を参観していた人間が、授業ビデオを見て、その時の真意や状態、考え方を質問して進めた。授業ビデオでは不明の「授業者としてこういう意図があった」という答えが多くなる。参考にしようという意図で授業後検討ビデオ視聴での肯定的な書き込みが多くなったことが予想できる。

第四に、学部生は、授業者から「こういう意図で授業を行った」と説明されると納得する。ベテランの教師の授業ビデオを視聴し最初は疑問に思っても、授業者から意図を説明されると、これから現場に立つ学生としては納得してしまう。授業後検討ビデオ視聴で批判的な書き込みがとて少ないのはその結果だろう。

第五に、授業の見方が三者で以下に別れる傾向にある。現役教師は授業者の意図を探ろうとする（①②）。学卒院生は学習者の様子を観察する（③④）。学部生は授業成立の基本的な部分を見る（⑤⑥）。

第六に、学卒院生や学部生は授業の「常識」をしていないことに批判的である（⑦⑧⑨）。「常識」を行っていないだけの異議なのか、それともそれ以上の理由があるのかは本アンケートの書き込みからは推測できない。

第七に、現役教師も、学卒院生も、学部生も、授業後検討ビデオの肯定的な見方としては、今現在、自分が「必要としている」「求めている」「興味ある」ところと授業者が答えてくれた部分が重なったところを書き出していると把握できる。アンケート内容を見ると、授業者が発言した内容を個別的に書き出している感じだからである。

第八に、授業後検討ビデオへの批判的な書き込みは、現役教師と学卒院生が主であるが、二つの傾向がある。一つは技術的に高度なことを行っているという指摘である（⑩⑪）。二つは現在の教育要請（例えば、全員参加や男女平等、人権的な意識）に照合しての指摘である（⑫⑬⑭）。

第九に、どの調査対象群も、授業ビデオを視聴後、授業後検討ビデオを見ることで、授業では察することのできなかった授業者の意図を知ることができたという感想が中心であった。

6 まとめ

本研究では、現職教師、教師を目指す学卒院生（1年）、教師を目指す学部生（3年）と3つの群に分けて「授業ビデオ」と「授業後検討ビデオ」の見方にどのような違いがあるかの考察を進めた。考察に書いたように九つの発見があった。授業実践力向上という意味では、日々試行錯誤できる現場にいる現役教師が有利だろう。しかし、本研究での「授業観察力」では「現役教師は授業者目線で授業分析ができる」「学卒院生と学部生は客観的に授業を見ることができる」程度の違いを見出すにとどまった。むしろ、授業への興味関心の有無の差が「授業を見る目」の有無につながると考えられる。ただし、本研究で調査実数が少ない。これが一般的な傾向なのかどうか不明である。

そして、学生をよりよい授業実践者に育てるための方法へ本研究をつなげていく必要がある。

引用文献および参考文献

- (1) 秋田喜代美・佐藤学・岩川直樹：教師の授業に関する実践的知識の成長－熟練教師と初任教師の比較検討－，発達心理学研究，2(2)，88-98，1991
- (2) 藤岡信勝：「ストップモーション方式による授業研究の方法」，学事出版，1991
- (3) 藤岡信勝：「連載・誌上ストップモーション24 有田和正氏の授業「出島」」，『授業づくりネットワーク』(37)，学事出版，1991
- (4) 前掲(3)

A Case Study on the Change of Consciousness Which Watched “Image of Classroom Study Meeting” after Watching “Classroom Video”

Takayuki ABE*

ABSTRACT

In our university, incumbent teachers and university students wishing to teach are mixed and learning. Even if you are watching the same lesson, there is a premise that “what you see” and “think” are different between the current teacher and the student. What are the differences? Three study subjects of incumbent teachers, graduate students, university students watched the same “class video” and “reflection video” and were asked to provide positive and negative feedback. Based on the survey form, analysis and discussion sections were added, and 9 characteristics of the three individuals were established. The viewpoint of the “class video” was able to give direction if it was related to the interests of the class.

* School Education